

呼吸器外科

当科は

「低侵襲胸部外科手術～ 完全胸腔鏡下手術&複雑区域切除術」 に力を入れています

はじめに

2022年に約60年ぶりに、肺癌の標準術式が改定になりました！ 肺癌の標準術式といえば、肺葉切除+縦隔リンパ節郭清術でしたが、肺野末梢で2cm以下の病変に対しては、区域切除術も標準術式のひとつとなりました。当科では、胸壁を温存する完全胸腔鏡下手術だけでなく、肺を温存する区域切除術も積極的に行い、胸壁・肺の両面からの低侵襲性を追求しております。患者さんが手術を受けやすい環境を作ることにより、より早期の段階で早期治療を行い、肺癌治療向上に貢献するのがモットーとしております。

当科の胸腔鏡下手術

当科では一般的な3ポート、4ポートのマルチポートから、伝統のある二窓法、より低侵襲を追求した1window & 1port法など様々なアプローチ法を扱っているため、応用範囲が広いのが特徴です。

2022年度から中村が常勤となり新体制1年目に124例の手術を施行し、その後も年間100例を超過しております。

2025年5月からロボット支援下手術も開始致しました。現在、常勤医1名にて中止しておりますが、2026年10月頃より再開予定です。

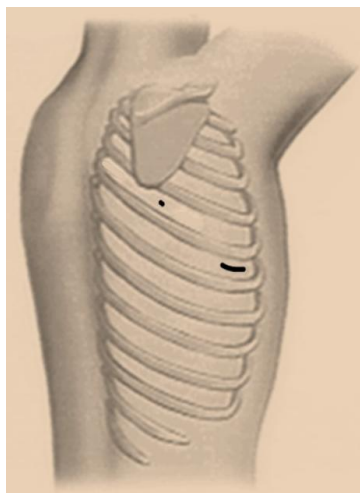


図1:1window&1portのポートの位置

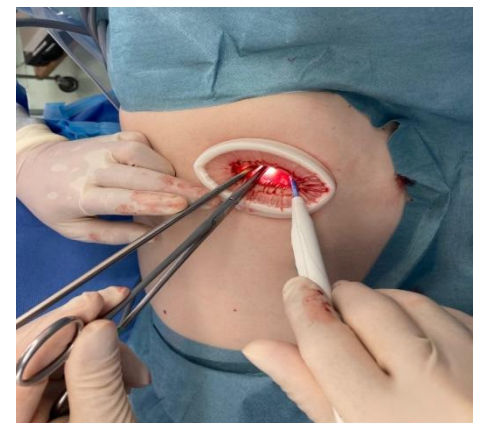
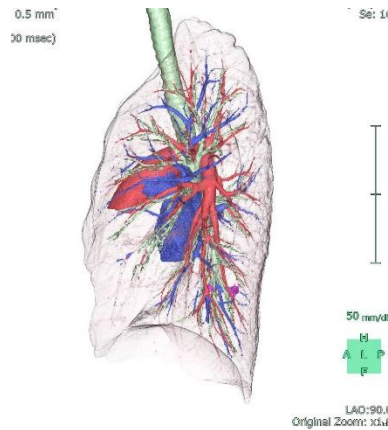


写真1:1window&1portの術中写真

当科における胸腔鏡下複雑区域切除術

当科では、技術的に難しいとされている複雑区域切除術も胸腔鏡下で行っております。特に、下葉のS7,8,9,10など区域間が分かりづらい症例に対しても、右の写真のように3D-CTやICG静注+遠赤外線カメラ法など、最先端技術を駆使して積極的に手術を行っております。2025年5月からは上記術式を主にロボット支援下で行っております。



左(写真2):3D-CT、右(写真3):ICG静注法(残すS8は染まり、取るS9との境界が分かる)



写真4:ロボット支援下手術

スタッフ紹介

部長 中村 雄介 横浜市大 2001年卒 日本呼吸器外科学会呼吸器外科専門医・評議員
日本外科学会外科専門医・指導医、日本臨床外科学会評議員、日本呼吸器学会呼吸器専門医、
日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医・指導医・評議員、肺がんCT検診認定医、
東海大学外科学系准教授・医学博士
非常勤 中尾 啓太 東京大学 2010年卒 ロボット支援下手術プロクター(指導医)
非常勤 小原 雅也 東海大学 2021年卒 東海大学大学院生
非常勤 山田 俊介(東海大学八王子病院)、藤森 賢(虎の門病院)、増田 良太(東海大学呼吸器外科学)

2025年8月20日より、m3.comで当科の記事を配信しております。是非、一度、ご一読ください！

<https://renkei.m3.com/articles/887>

ホームページも、ご覧ください。<https://omori.jrc.or.jp/department/respiratory-surgery/>

地域の皆様へ

少しでも地域医療に貢献できるよう力の限り邁進して参ります。迅速に対応できるよう、初診枠はいつでも空けておくように心がけております。確定診断前のご紹介で構いませんので胸部異常陰影、胸部症状などの患者さんのご紹介を是非ともよろしくお願い申し上げます。

(外来日:月曜日午後:中村、火曜日午前:中村・午後:小原、木曜日午前:中村・午後:中村)

気胸など緊急性のある疾患は外来日以外でもその日に対応致しますので、医療連携室(03-3775-3676(直通))までご連絡ください。